

# とうほく 彩発見

## 中嶋 嶺雄さん (国際教養大学学長) 国際社会学者

国際化・グローバル化に直面して、日本の学校教育における英語の在り方が本格的に問われはじめています。文部科学省も一昨年度から「『英語が使える日本人』育成のための戦略構想」というアクション・プランを策定した。01年度にまとめた「英語教育指導方法等の改善に関する懇談会報告」、翌02年度の「英語教育の改善に関する文部科学大臣懇談会報告」を受けての一貫した方策であり、今年度からは、初等中等教育局の管轄で中央教育審議会のなかに外国語専門部会が設けられ、小学校での正課としての英語教育導入に向けて鋭意検討が進んでいる。何しろわが国では毎年40万人以上が大学を卒業するというのに、10年間英語を学んでいながら、英語で仕事出来る卒業生は約1000人程度(TOEFLの

### 秋田弁と英語



## 国際社会でも「説得力」

論点は、「学校の教育現場ではあくまでも正確な発音や文法の

受けなかつた者からすれば(高校2年からフランス語を正課で

習い、大学受験はフランス語で、

の生き方」に関して立派な英語で講義していただいたが、氏は「秋田弁の英語でもいいのでは

スコアで600点以上)しかないのだから、これでは日本人の英語力はアジアの近隣諸国に比べてもあまりにも見劣りするといわざるを得ない。

英語を教えるべきだ」という意見と、「要するに通ずる英語ならそれでよい」という意見の対立である。英語教育の専門家に前者の意見が多いのは当然だと

しても、私のように毎日英語を流暢に話す、語彙(vocabulary

たしかに、この方言英語仮説は国際社会の現場に照らして大いに説得的である。インド人の英語はその訛りですくわ

論点は、「学校の教育現場ではあくまでも正確な発音や文法の受けなかつた者からすれば(高校2年からフランス語を正課で

構(UMAP)の理事会ではいつもオーストラリア英語に悩まされるし、タイ人の英語も語尾の上がり特徴的だ。香港中国人の英語は広東語特有の発音便が多々、いつも早口でまくしたててゐる。

なかじま・みねお 19

36年長野県松本市生まれ。東京大学大学院修了、社会学博士。95〜01年東京外国語大学長。カリフォルニア大学客員教授などを歴任。現在、文部科学省中央教育審議会委員(大学院部会長・外国語専門部会主任)。著書に「北京烈烈」(サントリイ学芸賞)、「国際関係論」など。03年度「正論大賞」受賞。

最近では日本でも方言が大いに見直されているので、方言と英語の関係について、私が最初に教職に就いた東京外国語大学で研究室が隣り合わせであったばかりか大学紛争時にいろいろとご一緒した金田一春彦先生にぜひ一度つかがってみたいと思っ

ていたところ、先般、ご世界されたのは痛く残念である。